

生野中学校区 学校再編整備計画（案）説明会 質疑応答議事録

- 1 日 時 平成 30 年 9 月 25 日（火）午後 7 時～午後 8 時 30 分
- 2 場 所 生野中学校 多目的室
- 3 参加者 15 名（大人 13 名、子ども 2 名）
- 4 出席者（事務局）

【教育委員会】川本教育政策課長、大川学校適正配置担当課長、樋口首席指導主事

【生 野 区】山口生野区長、深見生野区副区長、井平地域活性化担当課長

5 質疑応答議事要旨

（質問者 A）

去年の説明会で区長さんに、放課後とか子どもが、校区が広がってしまうので、例えば舍利寺の田島の方から寺田町の手前まで行ってしまふ、そういうとき安全安心などね、子どものことを見る人もいないし、そういうのが危なくなってしまうんじゃないですかと、質問させていただいたんですけども、区長さんは、他の事例などを見て、また答えますとおっしゃって、答えは聞かせていただけてないんですけど、意見あればお願いしたいんですけど。

（井平地域活性化担当課長）

ご意見ありがとうございます。今回の再編に当たって、校区は当然広くなります。広がった場合にどう見守っていくのかっていうことにつきましては、新しい学校の方もしっかり話をさせていただいて進めるんですけども、できるだけ活動範囲を制限するとか、そういった学校の決まりの中でどういったルールをできるのかとか、あと実際の見守りのですね、GPS 的なそういうことも含めてですね、どういった形で子どもたちを見守っていくのかっていうのは、実際の学校設置協議会の中で具体的な検討を進めていければと考えております。

（質問者 A）

そしたら、初めから遊びに行くところを制限するという意味も含んでるんですよね。

（山口生野区長）

他の学校区でもすごく広くなるところでいくと、基本的に校区内で遊びましょうっていうのが、もともとの小学校であります。その校区をその元小学校で区切るのか、一定子どもたちがよく集まる公園かがちょうどいいのがあって、ここまでなら大丈夫ですよ、とするのかは、学校との話し合いにはなりますけれども、一定例えば三年生までは元小学校のこのエリアまで遊びましょうとか、そういったような話になると思います。あと、いきいきがありまして、多くの子どもが特に低学年のうち、放課後学校でそのままいきいき活動の中で遊んで帰るところがあります。そのいきいきからですね、元小学校までその集団で送ってくる、その指導員と一緒にきて送ってきて、元小学校か、また地域の会館がどっか場所を決めて、保護者の方に受け渡しをするというような仕組みとかを、ちょっと考えていますので、実現できるかどうか、まだしっかり言えないですけど、その方向もしっかり考えておりますので、これは全市的にまだやってるところがないので今検討しています。やはりたくさん友達が増えたら一緒に遊びたいだろうというのも良く分かるところですので、まずは割りとか多くの子どもたちが学校でそのまま、いきいきの中で遊んでることが多いです

ので、いきいき活動を一緒にして、夕方送ってくるというような仕組みを、子どもの安全面からしても取れたらなというふうに思っているところです。

(質問者A)

いきいき活動に参加を促すという形…。

(山口生野区長)

そうです。

(質問者A)

それでも制限はしてしまうということですね、止めることもいけない。

(山口生野区長)

学校との判断で協議というか、また保護者の方の意見も聞きながらになると思います。

(質問者B)

これね、中学校との一貫校をめざす、ということやったんですけど、まず1点、中学校自体が小学生に対する優しさが生まれると言ってはるけれども、本来この中学校がそのような学校なんですか。生野中学校ってどんな中学校か区長さん知ってはるんですか。

うちの子どもがひとり生野中学校を卒業しています。現在生野中学校で問題になっているのは、学校の先生が精神的に追い込まれて休まれてるとか、そういったこともありますよね。そんな学校の中学生が小学生を優しく暖かく見守れるんですか。

あと、あなたたち箱ぱっかりつくって中身ぐちゃぐちゃじゃないですか。

うちこれからね、二人も小学校にあがっていくんです。しかも女の子です。通学路でね、あなたたち警察と連携とります、けど警察は事件が起きて12時間くらいたたないと動かないですよ。

その辺何かあった場合、どうやって責任とれるんですか。

またね、通学路から事件が起こるのがね、女の子が多いです。それも通学路から10分、10分の間に起きてるんですよ、よく統計とか取らせてもらったらね、

私も働いているのが救急です。その中でやっぱり通学路が遠いところでは、ケガとかが多いです、事故とかも。そのような面もどのようにお考えになってるんですか。

また、城東区のほうではね、今年6クラスだそうですよ、1年生、入学したのが。来年7クラスになるそうで、今年増築してるらしいです、ある小学校では。生野区では、なぜここまで子どもが少ないのか、他区に行ってしまうのか、まずそれをお考えなんですか。

まず、子どもたちが住みやすいまちづくりをしてからの話とちやいますの。舍利寺小学校ではね、正直生野中学生からの嫌がらせがたくさんありました。プールに投げ込まれたり、牛乳瓶割られたりもありました。でもその中で今年中学1年生で、教育ができないどーのこーの言いますけど、私立の中学校に行かれた方多いと思いますよ。教育は行き届いてるんです。そういったこともお考えですか。

親はね、子どもが「いってらっしゃい」言ったときにすごい不安を抱いて出してるんです、私だけかも知れませんが。んで「ただいま」言うたときに安心感があるんですよ。やっど子どもの顔が見れたいうことで。

で、これからの女性は働いていかないといけない、社会に進出しないといけない、こんな

学校でどうやって働けて言うんですか、フルタイムで。

いきいきでこないだもありましたよね、生野南小学校で。2年前のいきいきで参加したら、先生がはよ帰らなアカンから言うて子どもを門の前で待たせてたらしいですやん。それ、うちの姉の子ですわ。そういったこともあるんですか。いきいきの先生って言っても先生じゃないですよ。そういった方にどうやって責任を負えるんですか。

そして子どもたち1年生の間にね、お迎えします。その方が妊娠してたらどうするんですか。この距離、ずーっと遠い距離をこの距離、ずーっと遠い距離を自転車で迎えに行って、切迫早産とかになったらどうするんですか。切迫流産も考えられますよね。いろんな危険因子が考えられますよね。

メリット、メリットっていいですけど、デメリットしかありませんやんか。

(樋口首席指導主事)

貴重なご意見ありがとうございます。

(質問者B)

意見ちゃいますよ。

(樋口首席指導主事)

ご質問も多々あったかと思います。一つ生野中学校の実態知っているのかということなんですけれども。

そこにつきましては、この中学校にも、来させていただいて見ているところでございます。この生野中学校を何とかしていかないといけないというのは私も、この立場で思っているところなんですけど、直接的に簡単になるなんていうのは思っていないんですけど。

私は先ほど申しましたように3月まで小学校の校長やっておりましたっていうふうに言いましたが、私が行った学校も、4年前はもう本当に学校はこれでいいのかという状態から始まった学校でした。学校で暴れてる子とか、大人の話が聞けない子とか、その子たちが結局、何を求めているのかとかいうことも初めわからなかったんですけど、行き着いた結論というのはこちら側が改めて子どもたちを信じて、子どもたちに信頼される大人の存在になっていかないといけないということでした。

変えるというのは簡単ではないですが、今、生野中学校も、教育委員会や区役所と、しっかりと力を合わせて変えていこうということでスタートしたところですので、そのあたりは少しお時間をいただきながら、変わる場所を見ていただきたいと思います。

(井平地域活性化担当課長)

失礼いたします。通学路に関しまして、距離のことについて、ものすごく不安を持ち合っているのは、確かに皆さん持っているところだと思います。

ただ、大阪市としましては、再編後の学校につきましても、大阪市の中では、通学範囲内の学校であるというふうに認識しております。

その中でご心配いただいている不安な点ですね、どういった形で解決できるのかっていうところは、当然しっかりとやっていかなあかんと思っております。

警察との連携に関しても今ご意見いただきました。確かにいろんな状況が起こっていることは事実ですので、そういったところも含めまして、防犯のところと、事故のところも含

めてしっかり対応していきたいと思います。

それにつきましては、今後学校設置協議会の中で、保護者のPTAの方から推薦をいただいた方と、地域の方から推薦をいただいた方に、入っていただいて意見をいただいてまいりますので、その中でしっかりと対応ができるように取り組んでまいります。

(山口生野区長)

ご質問ありがとうございます。

通学路の件に関しましては、確かに特に女の子であること、ということでご不安だと思います。まず1人にしないというところを、特に夕方1人で帰るようなことにならないような手だてというのを、学校と一緒に。

またいきいきに行く場合は、いきいきから帰る手だてというのをしっかり考えていきたいです。予算もそこにはつけたいと思っております。

あともう一つ、子ども増やしてからというお話なんです。たしかに城東区、それから西区、中央区あたりはずっと増えています。そもそも、私が生野区長になったのは昨年度からですけども、生野区がこれだけ特に西部地域の子どもが減っているという理由についてはですね、分析をしますと、まず一点は、戦争で焼けていないために、かなり古い家が多いです。密集市街地というんですけれども、そういった長屋とか大変古い家が多くてですね、なかなか大きな土地が空かないというのが一つあります。四軒長屋、五軒長屋に1人だけお住まいでも、なかなかこう出ていっていただいて、そこをつぶして新しい家を建てるというようなことが難しい中での、今の状況というのもあります。ですから区としては空き家対策を一生懸命やる中で、今の時点ではもう一戸建てに建て変わったら割とかわいらしい一戸建てが建って子育て世代が来てくれるという状況がありますので、そういった建て替えの推進しながら、それでもやはり6クラスとか、5クラスになる地域というのは、700戸ぐらいの高層マンションがいくつか建つということで増えています。

生野区内に大きなマンションが建たない理由は土地も一つあるんですが、そういったディベロッパーと言われるマンションを建てるような会社でありますとか、宅建協会という不動産の会社の集まりにお願いをしに行っても、なかなか生野区では、そもそも建てる土地もないし、建ててもちょっと売れるあてがないみたいなことを言われてしまいます。

一つには、まちのイメージというのも実はありまして、区民アンケートを毎年、区役所の方から取っています。生野区は魅力ある街だと思いませんか、という質問の中で6割の方が、区民の方にとってのアンケートなんですけど、そうは思わないといったようなネガティブな回答でして、とにかく生野って、そんな治安も悪くないのに昔のイメージをずっと持たれてる方とか多いのかなということで、そういったいろんな改善っていうかですね、まちのイメージも変えたいと思って広報紙を変えたりでありますとか、子ども子育て世代にとって、いいまちになるようにということところは努力はしているところであります。

ただ今のずっと長いところでいきますと20年近く単学級の学校がありまして、今まで困ってないからもうこのままでいいじゃないかっていうご意見もいただくのはいたくんですけれども、今やっぱりこれだけ子どもが減ってる中で、単学級を避けて、実は区外でありますとか、東側の複数学級ある方に転居しているケースもありまして、何とか学校再編をし

て、いい学校、こういった教育的な内容も充実させて、選ばれる街になりたいということの取り組みはもう並行して進めなければならないんですけれども。

実際子どもが全部2クラスになるまで、全ての西側の再編の学校が2クラスになるまで増えるのに何年かかるかといったようなことを考えますと、全学年10人ずつ例えば増えるとなると、推計上1,500戸ぐらいの校区の中にできないと難しいような状態になります。そういったことを考えますとやはり、増えても、ひとクラス。単学級はなかなか解消できないというのが推計値で出ているので、やはり教育環境の改善というのはやらなければならないと思って取り組んでいるところです。

他にも・・・

(質問者B)

小学校、舍利寺のね、学校の近くに結構一戸建てが建ってきててね、学校が近いからって言って住んでるんですけど、子育て世代から言えばそれも魅力的になるじゃないですか、生野中学校の一貫校にしたら、舍利寺の人たちは遠くなりますよね。ってことは子どもたちが離れていくってことですよ、子育て世代がいなくなるってことですよ。

そもそも悪循環を繰り返しているってことになってるんじゃないですか、こんなん。

あなたたち何にも考えてへんやん、器ばかり言うて。中身いいもん言うてはれへんもんね、今でも。意見を聞きながら意見を聞きながら言うて、結果的に、去年からそういう親の通学路の意見もありましたよね。

それで、1年かけて何が答え出てるんですか。子どもたちがね、さっきのお父さんが質問してはったようにね、遊ぶ範囲が広まりますよね。ってなったら余計危ないんじゃないですか。そういったこと踏まえて考えてはれへんでしょ。後ろ盾が必要ですか。

子どものことをね、校長をやったやっただ言うてますけど、子どもに慕われる校長ですか。子どもとどのように接してたんですか。子ども見てたんですか。

(樋口首席指導主事)

はい。

(質問者B)

でもそれは、あなたの主観的な思いですよ。客観的には、違いますよね。

(樋口首席指導主事)

そう言われると答えられないですよ。

(質問者B)

自分の子どもが行ってる学校はあれやけど、行ってない学校は知らないから言えないけれど、自分の小学校の先生はね、慕われてましたよ。

(質問者A)

今の方も言われたように、地域格差が出るのは確実なことですよ。西生野と舍利寺、地域格差はすごく出ますよね、統廃合されれば。

学校はない。駅はない。魅力がないというのは駅がないから始まっていると思うんですよ、真ん中に。それはいいんですけども、学校の組み合わせなんですけども、例えば舍利寺の門から西生野も200m手前に持ってくるらしいんですけども、1.5km位でしたね、1.7kmと思

ったんですけども、勝山から西生野の南門であっても遠いというものを、北門じゃなしに、600 m ちょっとぐらいでいけるんですよ。子どもは通学から始まるんです。そこで、つまずかせたくないんです、僕は。もう 1.2km。舍利寺小学校に着いて、あなたの学校は 1.2km やと。そんな低学年のね、子どもによう押しつけないです。はっきりいうて、今日も朝雨降 っとして、傘さして、ランドセルやって、水筒持って、多分、体操服が入ってるカバンもっ て持ちにくそうに持ち替えて、えっちらこっちら歩いてるんですよ。そんな子が 1.2km、舎 利寺小学校から向こうに行けないと思うんですよ。僕らが早歩きでない歩く 3 倍ぐらい かかって歩いているのかなって、ちょっと止まってみたんですけども。だから子どもがそれで つまずかして、将来つぶしてしまう。それが一番嫌なんです、嫌というか、かわいそうなん ですよ。

実際、不登校なんか統廃合されて増えてるんじゃないかな。データなんか知らないんです けども、大人であってもすごいしんどいんです。土砂降りの日もあるし、豪雨であっても、 学校はありますよね、暴風警報ない限りは。それでも、土砂降りの中で 1.2km 向こうの学校 行け言われて、行けないと思うんですよ、あんな 1 年、2 年、まあ大きくなったら多少は 強くなっていくと思います。それで鍛えられていいやないかという、エエかっこする人もい るけど、そんなことはないと思いますホンマに。子どもがホンマにかわいそうで、かわいそ うだと思いますよ。

それと勝山と含めた、さっきの下の方の案やら、僕頭に入れてたんですけど、それでだめ なんです。中学が変わるといって、中学はもう廃校されたり、大事業なんです、中学 が変わるということは、もうどうってことないかな思って、今となったら。思ってるん ですけども、もう 1 回練り直したりはできないんですか、プラン。

(井平地域活性化担当課長)

はい、ありがとうございます。今の再編案につきましては、中学校を中心に小中一貫教育 というところで生野の中では取り組んでいくということで考えておるところです。ただ校区 のところにつきましては、地域の関係もごございますけれども、地域全体の中でいろんなご提 案をいただきましたら、それについては検討もできるかなと考えております。

ただ、地域として、こうした方がいいとかいう形でない、なかなか難しいかなというふ うには考えております。あと再編にかかわってですね、学校選択制っていうのは今のところ 西部地域では導入しておりませんが、西部地域の学校再編が全て完了した時点では、また学 校選択制ということも導入していきたいと考えておりますので、そこに関しましては学校 の方も選択できるような形では行いたいと考えております。

(質問者 A)

はっきり言わせてもらいまして、統廃合されれば選択の余地は、ほとんどなくなるような 気がするんですけど、距離的に。通学のこと考えたら。

だから、今の時点で先に選択制やってから考えるべきじゃないかなと思ったり、先の方 言われたみたいに生野中が荒れてるのを、何年か経ってもよう直せない状態で、それをきっ ちりやってから進めるのが筋じゃないかなあと思うんですけど、どう思われますか。

(川本教育政策課長)

生野中学校のように、なかなか落ち着かない状態になって、授業が成立しない状態になれば、崩れていくのは早いんですけど、建て直しは、それをやるのに3年ぐらいかかってしまうことが多くございます。

教育委員会でも、中学校の建て直しを視野に入れて、教職員の配置ですとか、それから生徒指導の充実のための生活指導支援員ですとか、そういったものを配置して、立て直していく中で、学力向上のためですね、施策なんかも打って、統合に向けてですね、統合案もごらんいただきましたけれども、統合までに3年ぐらありますので、それまでに落ち着いて勉強できる状態にしていきたいと思っております。

あと、最初の説明にも申し上げましたけれども、基本的には学校、近い方が当然通いやすいということもございます。学校が近くにあったのにちょっと遠くなってしまうというところは、非常に申し訳なく思うんですけども、実際には先ほどありました一つの基準としては2km以内っていうところがありますので、学校の配置、いろいろたくさん建てれば、それは確かにいいのかもしれないけれども、どうしても一定の適正規模っていうところがありますので2km以内のところやってそれで道の安全ですね、例えばスクールゾーンの緑のラインを敷いたりですとか、そういったことで、見守りもちょっとお願いしてるところもありますので、そういったところで安全を確保したいというのが我々の今の考え方でございます。

(質問者A)

よろしいですかね、もうちょっと、すいません。

通学の安全いうてますけど、さっきの話なんですけどね。友達と会うのを制限するとか、地域でやるけど、大人であっても、子どもは自由に行って抑えられないと思うんですよ。だから安全・安心という言葉が何か虚しい言葉にね、通学の安全を守りますとか。日曜日とか寂しいんです、外見てますと。そんな静かな中で遠くの方まで勝手に遊びに行ってしまう。クラスの友達と会うのが普通のことなんでね。だから親でも抑えられないし、なんでクラスの友達と遊んだらアカンねや、とかそういうふうになって自由に遊びに行くと思うんですよ。

それで制限するとか、いきいきで促すとか、そういうのであってもそれはただの言い訳であって、失礼な言い方ですけどね、それみたいな感覚を持ってしまうんですけど、どう思われます。

(川本教育政策課長)

私の個人的な見解は控えさせていただきます。

基本的に先ほどもありましたように、校区を出てはいけないというのは、学校のルールなんです。小学校の…。

(質問者A)

クラスの中でまとまっているから、それはある程度抑えられる。ただ、クラスの友達と遊ぶのを制限してしまうことになるんですけどね。区域を決めてしまうと。

(川本教育政策課長)

ですからそのルールの中で、その学校区の状況がどうかっていうところで、校区に限った

わけではなくて、このあたりでとか、ここは安全を確保するためにこの道は渡らないでおきましようねとか、そういったことは、まずはルール作りをちゃんとするっていうことが一つになると思います。

(質問者A)

あ、それとさっき生野中の校門にくっつけるっておっしゃったんですけども。

持ってくるということは、西生野の向こう側の方も、生徒もこっち側に回り込んでいくということになるということなんですか。西生野の南門を閉鎖して、生野中の門から入ってくることでですか。西生野の向こう側の方も。

(大川学校適正配置担当課長)

はい。一応ここで小中一貫、義務教育学校にした場合に、学校内の活動を二足制、下履きと上履きを分ける形で下駄箱を設定しようと思ってます。なので、入り口を今の生野中の正門側、そちらの1ヶ所にするという提案をしまして、今西生野の方もそちらの門に回っていただくという案にしております。

(質問者C)

生野小学校から疎開道路に通る道があるんですけど、途中まで2車線で、途中から何か立退きがまだ全然、1車線になってまた2車線になってるんですけど、それがなかなか立ち退きが進んでなくて、全然2車線になってないんですけど、それいつになったら2車線になるんでしょうか。

(大川学校適正配置担当課長)

はい、すいません。直接の担当所管ではないんですけども、そちらの状況につきましては、今おっしゃられましたように、用地買収の件、大分時間がかかってるんですけども、現在も買収に向けて取り組みを進めているというふうに伺っております。

その上で、説明は骨子として説明させていただきましたので。本日お配りしてます、この生野中学校区学校整備計画案の一番最後から1枚めくっていただいたページに、新たな通学路の案、校長先生の御意見を伺いながら、相談しながら、新たな通学路案、地図がちっちゃくて見にくくて申し訳ないんですけどもつけさせていただいております。

今ございました、生野小学校の北側から西に向いてずっと行く道路、こちらにつきましては今お話ありましたように、途中で用地買収が進んでないところは狭くなっています。

そこは非常に危険だということで、そこは東西に通らない通学路の案に今は設定させていただいております。ですので、そちらを南の児童は北に渡ると、要は道路を横断するところ、ポイントとして出てくるんですけども、その道路を通って、新しい学校に向いて行く形には、今はしてございません。

(質問者C)

道路も税金で作ってるのに、できてないっていうのがおかしいと思います。

で、子どもたちがぐるっと回るといのはおかしいじゃないんですか。

(大川学校適正配置担当課長)

ぐるっと回るとい…すいません。できる限り安全なルートを考えて今案を作ってますんで、そちらの道路の工事の進捗ですね、そちらも伺いながら随時安全なルートがありまし



たらそちらに変更していく、というふうには考えていきたいと思ってるんですけども。今時点の状況でいいますと、現在このお示ししている通学路案ということで考えておりますので、またそちらの道路の状況は変わり次第、変更していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(質問者D)

先ほど中学の立て直しの件、こうやって行きますとか、用地買収、今やろうとしてます、多分それやったら全然できないと思ひますわ。

それ全部終わってから、やるべき。小中一貫か何か知らんけど。

全部やってこれもやって調べときます、進行します、やってます、んでまた時間が経って、多分ずっとダラダラやるんやったら、そこまでを全部やってからこの話の方がいいと思ひます。

多分そこを整理したいとか、中学3年することと並行して、それはそれでやらなあかんことだと思ひんで、それを全部整えて、その上でやらんと誰も納得せえへんと思ひますわ。

(井平地域活性化担当課長)

ありがとうございます。いろんなご意見があるっていうのは私どもも認識をしております。ただ、今の子どもたちの教育環境の改善ということで、まずは1クラス、同学年単学級っていうものを改善するために、学校の適正配置ということで取り組んでおります。

今ありました中学校の教育環境も含めて、当然教育委員会、区役所がしっかりと、今後、教育環境のところがよくなっていくようにしていくっていうところも含めて、この小学校の学校再編につきましても、今ですね、強引に進めるということではないですけども、今やっていくべきやということでお話をさせていただいております。

今後ですね、地域まちづくり協議会、PTAの方にもお願いしていきますが、まずは学校設置協議会の中でそういったことも含めてしっかりと議論しながら、いつ開校するのかっていうところも含めてですね、しっかりとお話をさせていただきながら進めていきたいというふうに考えております。

(質問者A)

さっき公共交通機関の何か、書いてあったんですけども、具体的にどういふ。通学のときですね。

(井平地域活性化担当課長)

ありがとうございます。まだ検討をしている段階なんですけども、大阪シティバスなんかでですね、バスに乗るといふか、少しの間でもバスに乗って距離を短くすることもできないかっていうことで、そういったところも検討しているところでございます。

相手もある話ですし、実際の通学路とかも含めて、それがいいのかどうかも含めて検討が必要と思ひますので、そういったことも含めて、一番いい方法を考えていきたいと思ひしております。

(質問者B)

見守り隊のことなんですけども、現在そのボランティアで引き受けてくださって、町会長さんとかがされているんですけど、よく耳にするのが次やる人がいない、町会の会長でも

すぐにやってくれる人がいないということになっていってるんですけど、あくまでもボランティアでやってもらっているから、見守り隊にお願いしますは、強制はできないですよ、で、シルバー世代の方がやっておられるので、体調くずされたりすることも多いですよ。

その点、どんな感じでちょっと、されるんですか。

(井平地域活性化担当課長)

現在、見守り隊につきましては地域の方のボランティアっていうことで、学校の方と連携してやっていただいている形になっております。実際にはそういった形をお願いするところも大きいと思いますが、今回の再編に当たりましては、先ほどの交通機関のこともそうですが、危険なところに対して、スクールガードリーダー的なところの配置であるとか、そういったところも、行政として考えていかなあかんところもあると思いますので、危険場所等も含めて通学路の安全と合わせてですね、検討の方していきたいと考えております。

(質問者B)

その答えはいつももらえるんですか。

(質問者D)

そこが一番のところや。

(井平地域活性化担当課長)

実際のつくかどうかっていうのは、市役所の関係、予算の関係もあるんですけども、実際には今後設置に向けて進めます学校設置協議会の中で、当然通学路の話もさせていただきますので、その中で何か要るのかっていうご意見聞きながら、その中で順位も含めてですね、何が一番いいのかということも含めて、検討した上で確定していきたいと考えております。

(質問者D)

この11月っていうスケジュール、できるわけがない。とりあえず計画の…。

(川本教育政策課長)

すいません、ちょっと補足させていただきます。計画の方、スケジュール案ということで示しています。予算は単年度単年度で要求して、それで予算案というのを年度末の2月3月の議会に提出するということになりますので、実際にスクールガードリーダーということで、これをするような職員ですね。それを配置するということになったら、配置の前年度に予算をとるということになります。

その予算というのは当然、税金がある中でそれをこっちに確保するという作業が必要になりますので、まどろっこしい言い方をしてしまいましたけど、確保の作業がまだ入ってないっていうことがあるのでそうですけれども、実際に…。

(質問者B)

どんな方を確保されるおつもりなんですか。

(川本教育政策課長)

どんな方というのは、若い方とか、お年召した方とか、その辺の制限は、現在のところは未定です。基本的には危険箇所立ってもらおうとか、そういうことを職務にする方を考えているということです。

(質問者B)

それは誰が雇うんですか。

(川本教育政策課長)

区役所で雇用する方向では考えています。

(質問者B)

そういった人が事件をおこしたってことがありましたよね。

(川本教育政策課長)

そういう手続き上のことでございますけれども、開校までの間にそういった予算のことですとか、そのあたりを議論していくと。それで協議会で決まったことについてちゃんとこちらとしては予算を確保する努力して、それで配置していくということを今考えております。

(大川学校適正配置担当課長)

すいません、それとあと、11月までという部分なんですけども、今回示していますのが、工事、この中に校舎を増築しないといけませんで、その工事に非常に時間がかかります。ですんで、そのための工事に入って最短で、平成34年という時期をめざしてやるというその時期の決定は、この11月までに、協議会の中で決議いただければ、34年というのが決まると、そこまでに決まらなければ先には延びてはいくんですけども、まず時期を決めないと、その上で次に何をやっていくか、で繰り返しますけども、3年間かかりますので、その間にきっちり安全対策とか具体的な内容ですね、予算の確保も含めながらやっていきたいと、いうことでこちらに具体的に今お示しできているという状況ではないんですけども、その辺はきっちり警察ですとか、道路でしたら建設局も含めて調整して対策をとっていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

(質問者B)

どの方もおっしゃってないですけど、予算をつぎ込んで、予算をつぎ込んでとおっしゃってるんですけど、学校の児童が減ってきてね、余計な予算がかかっていると最初におっしゃってね、こんなんしますって言ってますけど、結局こっちのほうの方がようさんお金かかってますやん。女やからそう思うんかもしれないですけど、今のまま現状で行ったほうがいいんじゃないか。将来的に子どもが増えたらどうするんですかね。

(井平地域活性化担当課長)

予算に関してましては再編による効果額もありますけれども、その効果額の中で、今お話ししていますような、新しい学校の教育内容であるとか安全対策その他、いろんな予算を確保しながら、良い学校になるように対応していきたいと考えております。

将来的に子どもが増えた場合ということでございますが、なかなか難しい状況だというふうに認識しておりますけども、どうしても必要な場合につきましては、今回の再編については、学校跡地全て残すということにしておりますので、その場合については対応が可能であると考えております。

(質問者B)

11月までに地域では署名運動が始まっているんですよ。うちらもそろそろ始めよかって、

他のお母さんたちと話をしてるんですよ。署名運動や団体訴訟を起こした場合、着工を遅らせることは可能なんですよ。

(井平地域活性化担当課長)

訴訟とか、その辺にしては今どうかっていう返事はできないんですけども、今回の再編に関しましては、当然、地域、保護者の方のご理解、ご協力が得られる状況で、進めていく形で進めていきたいと考えております。

(質問者B)

署名が多ければ、理解が得られてないっていうことでしょ。

(川本教育政策課長)

一応訴訟という形で学校の再編止めたっていう例は私も聞いていないんですけども。

これまでの再編の進め方の中で、先ほどありました学校設置協議会を、統合に当たってのいろんな条件整備のために作るんですけど、それが立ち上がってない状態で、再編をやったっていう例はないんです。

ですから、やはりその再編に向けての理解と協力があって、それに向けて学校設置協議会を立ち上げていくということが一つのメルクマールという…。

(質問者B)

署名が多いと、理解がされていないと判断してくれるんですよ。

(川本教育政策課長)

署名というのがどういう形で提出されて、どういう形で処理されるかというところがあります。今、議会、市議会の方でも署名提出されて、それで陳情という形で質疑された例もごさいます。それを議会としては何かを決定するっていうわけではないんですけど、扱いとしては、教育委員会に善処してくれということを知照して再考するというごさいます。

署名を直接教育委員会にお出しただいて、そこで議論するというごさいます。

いずれにしても、その署名が多かったらやめるとか、やるとかそういうごさいません。

(山口生野区長)

いろんなご質問、そしてご意見ありがとうございます。

私も1人の親ですし、娘は小学校5年生で、下の子は今度小学校1年生です。自分が校長をしていた敷津小学校に、生野区長になるにあたって、千里山というところにもともと住んでまして、1学年5クラスの学校から小規模校に移ってきました。

自分が校長を3年間やっておりましたので、当然目が届く全ての子どもたちの名前を知っている、課題のある子にも丁寧に対応してきました。教員が少ないからというごさいますけれども、教室に入れない子どもとほぼ3年間、校長室で過ごしたようなごさいます。

良い面ももちろん知っていますし、近くだから安心して通わせられるという保護者の方の思いもよくわかっております。

一方でちょっと娘が5年生になりまして、女子が7人しかいないがために、ちょっと今人間関係で大変難しくなってきたなというのは、校長のときは、学校全体を見てたんですけど、いわゆる家庭での顔とか、家に遊びに来てとかで、実際子ども同士で校区外に出ていたりするっていうところもありまして、やはり子ども同士で、あちこち行ってしまうというような現状もある。そこは学校だけで、校長時代もそうだったんですけど、学校だけでどうにもできない部分もあって、それぞれの家庭でちゃんとしっかりせなあかん部分もあったり、また、なかなか保護者同士がね、今連絡網とか作らない時代になってまして、このお母さんにちょっと連絡取りたいんだ、とか、どこに遊びに行ってるんやろ、いつもあそこの家に行ってるみたいやけど、っていうところが、なかなか繋がりにくい時代にもなっているのかなというところも、悩んでるところです。

そして下の子が今度一年生ですので、当然大きなランドセルを持って通うというところで、そういったところの懸念というのも重々わかっています。

大阪市が一律に返すとなると、2キロ以上じゃないとバスであるとか、そういったような手立てはありませんというところなんですけど、私はシティバス、市バスですね、かつて市バスの、シティバスの時間を調べまして、停留所いくつかのここで乗って、ここで集合して、ここで乗って、ここで降りたらどうやろう、というようなシミュレーションでありますとか、荷物を減らす方法でありますとか、夏の暑いときにね、昨年度、校外学習に長く歩いた1年生の子が熱中症で亡くなるような事件もありましたし、そういった学校運営上の不安でありますとか起きることっていうのはわかっておりまして、保護者の方の不安も受けとめながら。

じゃあ、これを全く何もやらないで、区長として一番簡単に任期を終えようと思えば、私の任期は4年間です。プラス1年あるかもしれませんが、一番なんかこの、なんて言うかな、この問題から逃げるのは多分簡単やと思うんです。

ニコニコしながら、いつかやらないとだめだと思うんですよね、って言いながら、多分議論から逃げて、そしてこういった厳しいお声いただきながら課題解決からも逃げて、4年間過ごすというのは多分最も楽なんだろうと思うんですけども。

でも、やっぱり1学年1クラスそれも20人切ってきて、修学旅行行っても自然体験でも寂しかったり、男子4人しかいないクラスの中で、1年生のときからずっと力関係でちょっと難しかった子どもらに、もうちょっと違う人間関係作ってやりたかったなという思いもあって。もちろん現場にいるときは全力を尽くしているんですけども、そういった思いもあります。

できればこのことで、敵対関係というふうになるのではなくって、一緒に課題解決、子どもが少ないのはどうしたらいいんだろうとか、地域の課題、交通の安全をどうしたらいいんだろうっていうところは、全てにおいて地域の皆さんとか、保護者の皆さんとも、一緒に課題解決する、相手として話し合っていけたらなというふうに思っています。

一つだけちょっと最後に、この再編の話と関係ないように思えるかもしれないけど、これも交通安全にかかわることなんで言わせてください。

生野区の自転車事故は大阪府下でワーストワンなんです。それを聞いたときかなりシ

ヨックを受けました。朝、実際に今日たまたま交通安全運動の一環で、朝の登校、いくつかの地域を警察と一緒に回って、見守りの方に挨拶をするということがあったんですけども、商店街ものすごい勢いでやっぱり走って飛び出してくる、交差点斜めに突っきるでありますとか、信号守らないでありますとか、そういった本当に区内の方、全ての方、いろんな方にいろんな意味で協力を、まち全体を良くするための協力もお願いしつつ、またこういった子どもが減って、学校現場がしんどくなってきているという状況に対しての協力というのをお願いしていかなければならないなと思っています。

出前講座とかね、後でご説明しますけれども、そういった少人数の集まりに来て、本当に聞いてほしいねん、私たちの意見も聞いてほしいねん、どうすんの、っていうところもぶつけていただいたらと思っていますので、2人以上いたら行きますし、区の職員で行きますし、また地域での話し合いにも、ちょっと来てくれということであればお伺いしますので、また意見交換させてもらえたらと思います。今日はどうもありがとうございました。